目　　次

第一部　序　7

第一章　寒月の特有の笑い方―『吾輩は猫である』の構成の謎解き　15
　第一節　『吾輩は猫である』の構成に関して　15
　第二節　寒月の縁談をめぐって見た『吾輩は猫である』の構成　16
　第三節　寒月が細君と一回しか顔を合わせなかった真意　17
　第四節　金田富子との縁談の話題に対面する寒月の仕草　21
　第五節　『吾輩は猫である』の構成上の一貫性　23

第二章　「笑われる」存在―江戸っ子の流離譚　26
　第一節　『坊つちゃん』と『坑夫』との間　26
　第二節　『坊つちゃん』の「笑い」―「笑われる」存在としての少数派　27
　第三節　『坑夫』の「笑い」―「笑われる」存在としての少数派　34
　第四節　二つの作品の流離譚としての性格　40

第三章　「うすわらひ」「微笑」「ほほゑみ」の間―「笑い」の多義性　44
　第一節　「微笑」の表記　44
　第二節　漱石の小説における「微笑」類の全体的意味　48
　第三節　好意的「微笑」の意味　52
　第四節　中立的「微笑」の意味　60
　第五節　悪意的「微笑」の意味　61
　第六節　漱石の小説における「薄笑」　64
　第七節　「うすわらひ」「微笑」「ほほゑみ」の間　74

第四章　『明暗』の清子像への逆照射―「微笑」の眞意から　76
　第一節　『明暗』の清子像をめぐって　76
　第二節　『明暗』の清子像への逆照射　77
　第三節　『明暗』における「微笑」の眞意　78
　第四節　清子の命名に関して　84
　第五節　『明暗』の清子像　90

第五章　「笑い」の変貌―「聞く」から「見る」への装置　92
　第一節　「笑い」の表現の全体像①――「声」と関連して　92

第二節　「笑い」の表現の全体像②――性別と関連して　95
第三節　「笑い」の表現の全体像③――描写から説明へ　97
第四節　「笑い」の表現の全体像④――「微笑」で描く夫婦関係　100
第五節　「笑い」の表現の全体像⑤――「微笑」で描く男女の態度の差異　103
第六節　「笑い」の表現の全体像⑥――聴覚から視覚へ　107
第七節　「笑い」の表現の全体像⑦――心理的内面への深化　110
第八節　作品の「笑い」と漱石との間　112

第一部　結語　114

第二部　序　116

第一章　日本古典文法の教授方法を考える―動詞を中心に　117
第一節　日本古典文法の教授をテーマに選んだ理由　117
第二節　現代日本語を踏まえた上での古典文法の学習方法の探求　118
第三節　現代語動詞と古典語動詞の対応関係を例として　120
第四節　日本古典文法の便利な学習方法　132

第二章　日本漢文教育の教授方法を探求して―訓読の基本を学ぶ　134
第一節　漢文学習の必要性及び目標　134
第二節　漢文訓読の把握　135
第三節　古典学習との相乗効果を目指す漢文学習　141
第四節　漢文の基本的構造　142
第五節　入門段階における漢文指導の要点　142
第六節　中国語との相違による漢文訓読の特色　143
第七節　漢文学習の意義　146

第三章　古典日本語の学習内容について――教材の選択と編集を中心に　148
第一節　古典日本語文法を学習する重要性　148
第二節　古典日本語学習を大学三年生から始める理由　149
第三節　古典日本語文法の学習内容　150
第四節　古典日本語学習の教材内容　151
第五節　古典日本語学習―①動詞、形容詞、形容動詞などの用言の学習　151
第六節　古典日本語学習―②音便の学習　155
第七節　古典日本語学習―③名詞、数詞、代名詞などの体言の学習　159

第八節　古典日本語学習—④連体詞、副詞、接続詞、感動詞などの独立詞の学習　160
第九節　古典日本語学習—⑤助動詞、助詞などの附属詞の学習　161
第十節　古典日本語学習—⑥各種類の古文の解読　164
第十一節効率的古典日本語の学習　171

第四章　日本の短歌（和歌）・俳句の指導方法について
—韻文の修辞法を中心に　174
第一節　日本の短歌（和歌）・俳句を指導する必要性　174
第二節　日本の短歌（和歌）・俳句を把握する要点　175
第三節　日本の短歌（和歌）の場合　177
第四節　日本の俳句の場合　186
第五節　日本古典韻文への理解　190

第五章　台湾の大学四年生の論文指導法
——日本近代文学研究を例として　195
第一節　卒業論文指導の意義と問題点　195
第二節　日本近代文学の研究方法の紹介　196
第三節　卒業論文指導における指導の手順と要点　198
第四節　卒業論文指導の中心課題　207

第二部　結語　210

用例集　212